

学校図書館支援センター通信 NO 10 7月号

平成20年度 市川市学校図書館支援センター（市川市教育センター）

春も！夏も！読書！

市川市では、読書週間を年間2回（春と秋または夏と秋、）実施している学校も少なくありません。今月は、春、夏の読書週間の様子を、司書教諭さんに紹介していただきます。

富貴島小学校の「春の読書祭り週間」での取り組みをご紹介します。

図書委員会の児童による本紹介や大型紙芝居などには、多くの子もたちが図書館に集まり、様々な分類の本を手にとっていました。兄弟学年での読み聞かせでは、高学年は本選びや読み方を意識し取り組みました。一方、低学年は読んでもらった喜びや感謝の気持ちを言葉や絵など、いろいろな方法で伝え、より深い結びつきが生まれました。

また、地域の方々には、影絵や語り聞かせ、大型紙芝居をしていただきました。どの子もお話の世界に入り込み、目を輝かせていました。表現方法にも興味を持ち、「影絵の仕組みは？」「どうして本を見ないでお話できるの？」などと質問しました。

様々な本を通しての経験を活かして、今度は自分たちの力で秋の読書祭りを創り上げていきます。

（富貴島小学校 司書教諭 上野彩）



図書館ボランティアによる大型紙芝居

6月16日～27日まで、「近くの国のことを調べて、もっとくわしくなろう！」をテーマに取り組みました。8月の北京オリンピックが近づいているので、いろいろな国に関心を持ち、理解を深めてほしいと願い、このテーマを設定しました。

主な活動は、毎朝15分間の朝読書、兄弟学級の読み聞かせ、図書委員による中国や韓国についての掲示・民話の放送・クイズ等です。特に今回は、金基英（キム・キヨン）さんを招いて、韓国の民話の語りの会を実施しました。金さんは、美しい民族衣装で登場し、子どもたちの注目を浴びました。また、給食にも中華料理・韓国料理の献立を出してもらい、味わいました。

このような活動を通して、近くの国（特に、中国や韓国）について理解を深め、親しみの気持ちや関心を高めることができました。

（真間小学校 司書教諭 小泉美江子）



金さんによる韓国民話の語り

<データで見る市川市の学校図書館②>

「市川市学校図書館チェックリスト調査より」（平成19年度末）

- ①校内に学校図書館部会がある。 (小 85%、中 88%)
- ②研究推進委員会に司書教諭が所属している。 (小 35%、中 37%)
- ③図書館に新着図書のコーナーを設けている。 (小100%、中100%)



「市川市学校図書館フェスティバル」を開催します！

「学校図書館支援センター推進事業」（平成18～20年度、文部科学省地域指定）のまとめとして、『市川市学校図書館フェスティバル』を下記のとおり開催します。

市内の幼稚園、小・中学校の園長先生・校長先生をはじめ、市内外の学校図書館関係者（教諭、司書教諭、学校司書、学校図書館員、ネットワーク担当者、公共図書館職員、教育委員会、保護者ボランティア等）の多数のご参加をいただき、これからの市川市の学校図書館のあり方を考えるよい機会としたいと思います。また、「学校図書館で子どもの心と学びをどのように育てていくか」、市川市のこれまでの実践を参加者の皆さんで確認し合い共有すると共に、市外に向けて広く公開・発信することで、ご指導をいただきたいと思ひます。

ご協力のほど、どうぞよろしくお願い申し上げます。

- ◎ テーマ 「学校図書館で育てる子どもの心と学び」
- 期 日 平成21年1月23日（金） 受付 9:00～
- 会 場 市川市文化会館
- 主な内容 記念講演会、シンポジウム、分科会、公共図書館見学など
- ◇ 記念講演
 - ・演題 「これからの学校図書館を考える」
 - ・講師 片山 善博 氏

（慶應義塾大学法学部教授、前鳥取県知事、文部科学省「子どもの読書サポーターズ会議」座長）

※ 各幼稚園、小・中学校には、「第1次案内」を送付いたしましたので、ご確認ください。



図書館の窓から ～ひろげよう！図書館の輪・リレー執筆～

教室から、「雨ニモマケズ、風ニモマケズ……」と宮沢賢治の詩が聞こえてきました。毎年読書まつりの時全校で群読をします。『日本語を楽しもう』をテーマに1年生から6年生まで全員が賢治の詩を覚え、リズムに乗って体育館中に声を響かせました。賢治の作品のすばらしさを感じるとともに、語った後の子どもたちの満足感に満ちた顔。すばらしい群読タイムでした。

子どもたちに出会わせたい美しい日本語で書かれた作品がたくさんあります。新しい作品だけでなく、古典の作品も全校で語れば、きっと忘れられない一作となるでしょう。

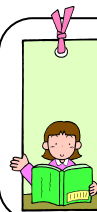
（富美浜小学校 学校司書 牛尾直枝）



「日本語を楽しもう」コーナー

路子の部屋 ～「読書を科学する」～

近年、脳科学研究の分野の進展が著しいですね。その第一人者である川島隆太氏（東北大学未来科学技術共同研究センター教授）の読書に関する研究報告によると、脳が最も活性化するのは特に「音読」をしている時。「目で見て、声を出して、耳で聞いて、理解する」。これは、高齢者はもちろん、子どもたちの脳の活性化と言語力の獲得に多大な効果を発揮するそうです。



※ 第2回学校図書館研修会・ネットワーク会議（8月29日）では、五十嵐絹子さん（鶴岡市学校図書館支援スタッフ）をお迎えし、「私の学校図書館づくり」と題してご講演をいただきます。どうぞ、お楽しみに！（会場は、教育会館です。受付9:40～）

